

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

令和2年6月1日(月)

6月号 児童数 929名

TEL:048-461-0410

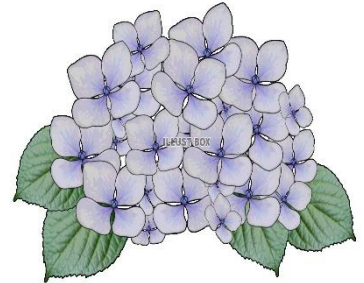


【学校教育目標】 「心豊かに自ら学ぶたくましい人間の育成」

思いやりのある子 自ら学ぶ子 元気な子

【めざす学校像】 「学ぶ喜びと感動のある学校」

【朝霞六小の合言葉】 ～花あり 歌あり 笑顔あり～



正しい方向へ、そして 未来へ

校長 木村 直美

日本高野連と主催の朝日新聞社が、5月20日、第102回全国高等学校野球選手権大会の中止を正式に決定しました。春の選抜に続き、甲子園大会も中止になるという連絡を聞く約14万人の全国高校球児の無念はいかばかりかと衝撃を受けました。「甲子園に出場したい」と幼いころから夢を抱き、高校3年生になった子供たちは、一生に一度の挑戦をすることができなくなりました。こんなに、子供たちを泣かせていいのか。そんな思いにこちらも耐えきれなくなっていた時に、明德義塾高校の馬淵史郎監督が約100人の部員に大会中止を伝えた記事を目にしました。(以下「」は朝日新聞デジタル記事より引用、略あり)

「(略)目標にしていた大会がないので非常に残念でたまらん、俺も。(略)だが、いつも言っているように、高校野球の目的は「人間づくり」やから。(略)目的は『将来につながるための高校野球』だから。それだけは忘れるなよ。勝った負けた、甲子園に出場できるできない、レギュラーになったなれないと、いろんなことがあるけど、要は、世の中に出て、通用するようなことをグラウンドで学ぶのが高校野球なんや。大会がなくなったからと言って自暴自棄になり、目標を失ってふにゃふにゃの人間になったらあかんぞ。まだまだ将来つながるんやから。(略)忘れるなよ。世の中に出ていろんな苦しいことがあった時に、耐えていける精神力をつけるというのが高校野球なんや。こういう苦しい時こそ、人は試されるんやで。甲子園だけがすべてじゃないんだから。(略)全員が気持ち切り替えてやっていかないと。それでも最後まで同じ仲間とグラウンドでやれたというのが、財産やから。10年、20年たって、『あの時、自分らの代は地方大会がなかった。試す場所がなかった』ということが、きっと役に立つことがあるから。

これで気持ちを切り替えるのは難しいかもしれんが、次のステップにみんなが進んでいくようにしよう。今の状況は命に係わることやから。最近では若い者でも重症になったり命がなくなったりするものもおるんで。ほかの人にうつしたりする心配もある。地方大会がなくなったというのも、移動と審判員の安全のため。それと今は医療体制が崩壊しかかっているやろ。球場に医者を派遣するだけの余裕がないと言われている。高知県だけじゃない、甲子園もそうや。みんなを守ろうということよ、要するに。(略)そういう捉え方をせないかんのじゃないかな。(略)つらいわな。気持ちはようわかる。親御さんもそうだと思う。そういう関係者のことも考えたら非常につらい。気持ちを切り替えてくれとしか言いようがない。頑張っやれよ、ここからだぞ。ここからが出发点だ。何も終着駅じゃないよ。気持ちを切り替えてやっていけよ、ええか。」

インターハイや全国中学校体育大会も中止になり、この先も子供たちは心がつぶれそうになることがあるかもしれません。“コロナと共存する新しい生活様式”が始まります。そんな時こそ、周囲にいる大人が共に悲しんだり苦労したりしながらも正しい方向へ、楽しいことがたくさん待っている未来へと力強く導いていかなくてははいけません。大人の示す道しるべの重要性を認識し、言わば航海における灯台でありたいものです。